

平成 21 年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 新学術領域研究（課題提案型） 4. 研究期間 平成 20 年度 ～ 平成 22 年度
5. 課題番号 2 0 2 0 0 0 4 3
6. 研究課題名 逸脱を吸収する社会実現に向けたコミュニケーションギャップ生成－解消機構の解明
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
1 0 4 5 4 1 4 1	フリガナ エノモト ミカ 榎本 美香	メディア学部	助教

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 2 4 2 4 3 1 0	フリガナ オカモト マサシ 岡本 雅史	片柳研究所	客員准教授
4 0 3 8 1 4 2 0	フリガナ ヤマカワ ユリコ 山川 百合子	茨城県立医療大学・保険健康学部	講師
7 0 2 1 4 9 4 7	フリガナ クシダ シュウヤ 串田 秀也	大阪教育大学・教育学部	教授
	フリガナ		
	フリガナ		

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究の狙いは、統合失調症や高次脳機能障害という病名が与えられた人々(the Communication Handicapped; CH)が社会から分離されることなく、地域の人々と自然な交流のできる社会の実現にある。その足掛かりとして、本課題では、会話の成員が個々に持つ社会的・個人的属性や会話の個々の構成物(発話や身振り)の相互作用が作り出すコミュニケーションシステムにおいて、コミュニケーションギャップが検出され、排除/吸収されていく過程のメカニズムを解明する。

前年度は、関東圏 4 施設において統制条件会話(参加者の病名・重症度・会話対タイプ・会話時間を恒常化した会話)計 50 組の会話データの前発話の書き起こしを作成し、またその内の 16 組については視線方向に関する映像アノテーションを行った。そして、それらのデータを用いて以下の分析を行った。

- ① 会話中で繰り返される<逸脱>時に共通してとられる会話方略の解明(榎本・串田)
- ② <逸脱>発言に付随するメタメッセージの理解と産出の機構を解明(岡本・榎本・高梨)
- ③ 参加者が自他のルールを対象化するメタ認知機構を解明(松嶋・岡本・高梨)
- ④ 上記で得られた知見をもとに CH と周囲の人々に双方のずれ違いに「気づき」をもたらす会話実践(山川・松岡・小谷)
- ⑤ イタリアにおける CH の地域生活の調査(榎本・岡本・松嶋・山川)

10. キーワード

- | | | |
|---------------|----------|-----------|
| (1) コミュニケーション | (2) 逸脱 | (3) 統合失調症 |
| (4) 高次脳機能障害 | (5) メタ認知 | (6) 認知障害 |
| (7) インタラクション | (8) 会話分析 | (裏面に続く) |

11.研究発表（平成21年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（13）件 うち査読付論文 計（3）件

著者名	論文標題			
榎本美香	海外通信：コミュニケーションに根差した地域精神医療			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
地域リハビリテーション	無	5(3)	2010	pp. 274-275

著者名	論文標題			
高梨克也・榎本美香	聞き手行動研究の広がりと深まり：「誌上討論」の編集にあたって			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
認知科学	無	16(4)	2009	pp.473-474

著者名	論文標題			
榎本美香・石本祐一	「うん」の音響的系譜～応答・承認・相槌の自動抽出に向けて～			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
情報処理学会研究報告	無	Vol.2009-SL P-77 No.23	2009	pp.1-6

著者名	論文標題			
石本祐一・榎本美香・小磯花絵	「うん」と先行発話の音響的特徴による機能分類			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
電子情報通信学会技術研究報告・信学技報	無	Vol.109・No. 451	2010	pp.117-122

著者名	論文標題			
山川百合子	リハビリテーション心理学・社会学 UPDATE リハビリテーションにおけるうつとQOL			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Clinical Rehabilitation	無	18	2009	pp.815-819

著者名	論文標題			
山川百合子	脳卒中後うつ病の診療とケア脳卒中後うつ病とは			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
看護技術	無	55	2009	pp.65-68

著者名	論文標題			
山川百合子・山口康夫・南部節子・清宮玲子	自殺予防対策シンポジウム ―自殺を防ぐために私たちにできること―			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
ぼんさんて（いばらき精神保健）	無	92	2009	pp.32-56

著者名	論文標題			
黒澤也生子・山川百合子	リハビリテーション関係者が知っておくべき精神科疾患・精神医学作業療法士の立場から			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Medical Rehabilitation	無	106	2009	pp.57-61

著者名	論文標題				
山川百合子	海外通信イタリアの精神医療と地域リハビリテーションー精神科医の視点から (1)				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
地域リハビリテーション	無	5	2010	pp.78-81	

著者名	論文標題				
山川百合子	海外通信イタリアの精神医療と地域リハビリテーションー精神科医の視点から (2)				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
地域リハビリテーション	無	5	2010	pp.177-181	

著者名	論文標題				
串田秀也	理解の問題と発話産出の問題-理解チェック連鎖における「うん」と「そう」-				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
日本語科学	有	第25号	2009	pp.43-66	

著者名	論文標題				
松岡恵子・小谷泉・山里道彦	高次脳機能障害者における情報通信機器の使用に関する調査				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
認知リハビリテーション	有	14(1)	2009	pp.8-20	

著者名	論文標題				
高梨克也・関根和生	サッカーにおける身体の観察可能性の調整と利用の微視的分析				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
認知科学	有	17(1)	2010	pp.236-240	

【学会発表】計 (10) 件 うち招待講演 計 (0) 件

発表者名	発表標題		
榎本美香・岡本雅史・串田秀也・小谷泉・松岡恵子・松嶋健・山川百合子	コミュニケーションギャップを解決しない会話トラブル解消プロセスの観察ー慢性期統合失調症患者の会話事例を通じてー		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第105回日本精神神経学会	2009年8月21日	神戸国際会議場 (兵庫県)	

発表者名	発表標題		
松岡恵子・小谷泉・山川百合子・岡本雅史・榎本美香	前頭葉背外側部障害例におけるインタビュー談話の2年間の経過について		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第33回日本高次脳機能障害学会	2009年10月29日	ロイトン札幌 (北海道)	

発表者名	発表標題		
榎本美香・岡本雅史・高梨克也・伝康晴	ワークショップ「コミュニケーションの中のメタ認知ー高次脳機能障害や精神障害を抱える人々とのコミュニケーションギャップを手掛かりとしてー」		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本認知科学会第26回大会	2009年9月12日	慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス (神奈川県)	

発表者名	発表標題	
石本 祐一・榎本 美香	対話における相槌・応答・承認の音響的特徴による分類に関する検討	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本音響学会2009年秋季研究発表会	2009年9月17日	日本大学工学部 (福島県)

発表者名	発表標題	
定村美紀子・奥野純子・山川百合子・柳久子	精神科の訪問看護を利用する患者の特性と服薬行動との関連	
学会等名	発表年月日	発表場所
第32回日本プライマリ・ケア学会学術会議	2009年8月22日	国立京都国際会館 (京都府)

発表者名	発表標題	
Shuya Kushida	Confirming understanding and appreciating assistance: uses of nn-type and soo-type tokens in response to understanding check in Japanese conversation.	
学会等名	発表年月日	発表場所
Poster presented at 11th International Pragmatics Conference	2009年7月16日	The University of Melbourne (オーストラリア)

発表者名	発表標題	
Shuya Kushida	Reappraising Garfinkel's notion of "self-organizing" setting: An example of negotiation over treatment at a mental clinic.	
学会等名	発表年月日	発表場所
第82回日本社会学会大会	2009年10月12日	立教大学池袋キャンパス (東京都)

発表者名	発表標題	
常志強・高梨克也・河原達也	ポスター会話におけるあいづちの韻律的特徴に関する 印象評定	
学会等名	発表年月日	発表場所
人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会 第56回研究会	2009年7月24日	北見工業大学 (北海道)

発表者名	発表標題	
高梨克也・関根和生	サッカーにおける身体の観察可能性の調整と利用の微視的分析	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本認知科学会第26回大会	2009年9月12日	慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス (神奈川県)

発表者名	発表標題	
高梨克也・常志強・河原達也	聞き手の興味・関心を示すあいづちの生起する会話文脈の分析	
学会等名	発表年月日	発表場所
第58回人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究	2010年2月12日	須磨温泉寿楼 (兵庫県)

【図 書】 計 (5) 件

著 者 名	出 版 社		
榎本美香	オーム社		
書 名	発 行 年	総ページ数	
知の科学—多人数インタラクションの分析手法・3.1節	2 0 0 9	pp.68-81	

著 者 名	出 版 社		
岡本雅史	オーム社		
書 名	発 行 年	総ページ数	
知の科学—多人数インタラクションの分析手法・5.3節	2 0 0 9	pp.187-202	

著 者 名	出 版 社		
高梨克也	オーム社		
書 名	発 行 年	総ページ数	
知の科学—多人数インタラクションの分析手法・2.1節	2 0 0 9	pp.22-34	

高梨克也	オーム社		
書 名	発 行 年	総ページ数	
知の科学—多人数インタラクションの分析手法・5.1節	2 0 0 9	pp.156-171	

著 者 名	出 版 社		
高梨克也	昭和堂		
書 名	発 行 年	総ページ数	
インタラクションの 境界と接続・第1部インタラクションにおける偶有性と接続	2 0 1 0	pp.39-68	

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

【出 願】 計 (0) 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

【取 得】 計 (0) 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関する w e b ページがある場合は、URL を記載すること。

<http://www.dcgp.info/performance.html>